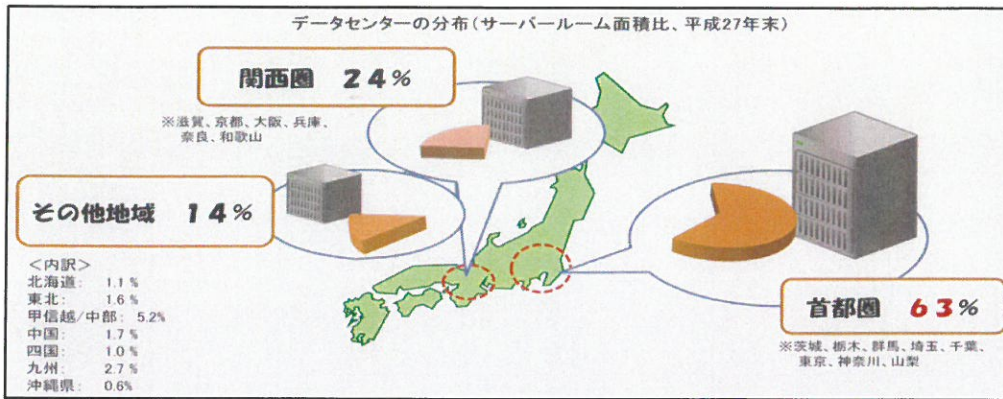


① データセンターの地方分散化が進まない背景



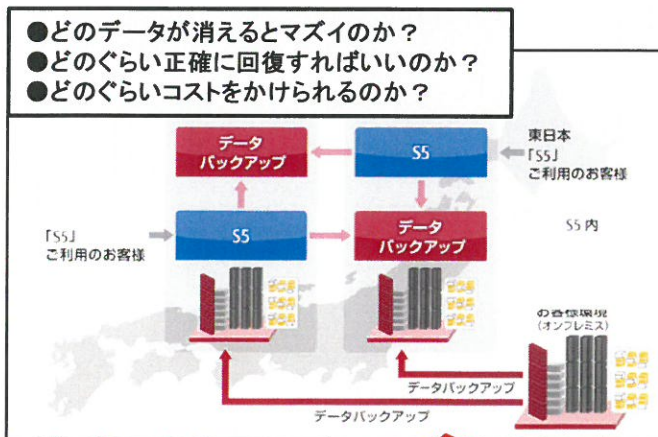
市場規模の売上実績値(2014年)から割合を算出

【地域】	クラウド	ホスティング	ハウジング
北海道	12%	20%	51%
東北	9%	20%	54%
甲信越・中部	3%	20%	59%
中国	5%	20%	58%
四国	9%	20%	54%
九州	11%	20%	52%
使い方の区別	ユーザーは必要時に必要量を使う。場所はネットの向こう側で複数のサーバが仮想化されている。「雲」の様な存在。	データセンター保有のサーバを借りて、そこでアプリを動作させる。いわばレンタルサーバ。共有型と専有型がある。	※自分が所有するサーバや機器をデータセンターに持ち込み、ラック設置場所・電力・回線などを提供してもらう。

(出典)総務省「国内データセンターの分布」(平成28年4月配布)

(出典)富士キメラ総研「データセンタービジネス市場調査騒乱2015年版・上巻:市場編」より石上俊雄事務所作成

② 災害時のバックアップとは「冗長性」の問題



クラウド中心のデータセンターならば場所はどこでも気にならない。ユーザーは訪れることも考えない。

●寒冷地だと冷却費用も安い。
●都市でなければ土地代も安い。
●回線の太さの問題は出てくる。

グーグル社の例

・重要なデータ・情報は誰でも手元に置きたい。海外でもハウジング需要のデータセンターは日本同様に大都市近郊に位置している。
・災害時のバックアップ(BCP/DR)は冗長性ゆえコストが発生。まず考えるべきは、何を、どの位の費用で、どの位の精度・時間で復旧させるべきか。また、地震などの災害を想定するならば、異なる場所(プレート上)でコピーを持つ必要がある。さらに、コピーの同一性の程度の必要性に応じて、同期をとる頻度・タイミング(全く同一にするなら常時接続)も検討が必要。

(出典)富士通HP:「東西リージョンでのデータセンターで災害対策」<http://jp.fujitsu.com/solutions/cloud/iaas/fgcps5/reasons/05.html>
(出典)グーグル社HP:「Where the Internet Lives: The Places」<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/#/places>